

用具を活用し安全を確保した実践例

学 校 名 湯浅町立湯浅中学校（和歌山県）

電 話 番 号 0737(63)5531

全校生徒数 383名（男子179名 女子204）

種 目 等 武道（柔道） 全学年

1 取組のねらい

- （1）全生徒が、安全かつ積極的に柔道に取り組めるよう体育担当教員の指導力向上を図る。
- （2）従来の単元計画を見直し、各学年の技能の段階に応じた単元計画の改善をする。

2 取組の概要

（1）体育担当教員の授業力向上

地域の指導者が示範や説明を行い、次回の授業で体育担当教員が同じように実践をすることで、体育教員の授業力の向上を図った。

（2）生徒の技能の段階に応じた授業展開

個々の生徒の十分なスペースを確保するために畳を増設した。また、畳と接している柱はクッション性のあるもので覆った。今回、柔道を初めて経験する生徒に対しては、頭部保護用のヘッドキャップを着用させ、安心感を与えるとともに、前回り受け身の学習時には「前回り受け身練習マット」を使用するなど、怖がらず安心して柔道に取り組めるようにした。

体育担当教員はT1として授業を行い、地域の指導者は、T2として、技の示範や、習得が難しい生徒の個別指導を分担した。

（3）単元計画の見直し

湯浅町地域連携指導推進協力者会議を開催し、年度当初に研究テーマについて話し合い、具体的な実践方法を協議した。また、先進地域の中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校を視察し、本校の指導実践に活かした。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 柔道を初めて経験する生徒には、初期段階で頭部保護用のヘッドキャップを着用させ安心感を与えた。
- 2 「前回り受け身」の習得にあたっては、「前回り受け身練習マット」を使用した
- 3 畳を増設して個々の生徒のスペースを確保し、柱はクッション性のあるもので覆った。

○成果と課題

- 1 体育担当教員と地域の指導者の2名で授業を行ったことで、生徒により細かく目が行き渡り、安全面・実技指導面ともに大きな効果があった。
- 2 ヘッドキャップを着用させたり、「前回り受け身練習マット」を使用したりすることで、生徒が怖がらず安心して柔道に取り組めた。
- 3 地域の指導者と事前や事後の打ち合わせの時間確保が今後の課題である。

○研究内容

【授業担当教師も自由練習に参加】

指導者が二人いるので生徒の中に入って指導できた。



【地域の指導者の示範】

きめ細やかな指導ができた。



【前回り受身練習マットの活用】

恐怖心が減って思い切って回る事ができた。



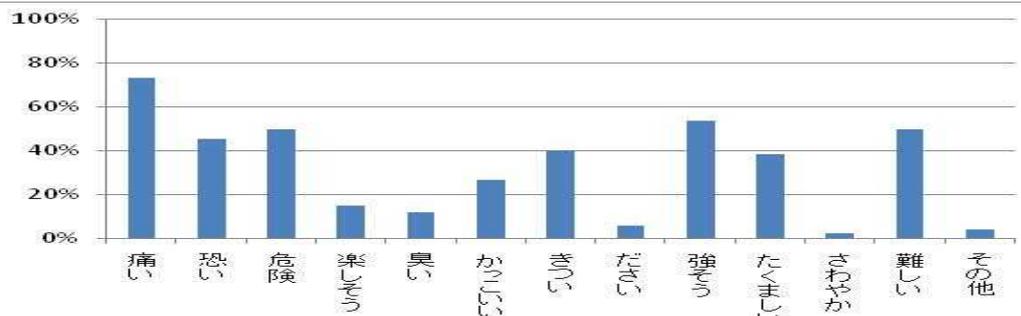
【ヘッドキャップの着用】

安心感があるので受け身の練習に集中できた。



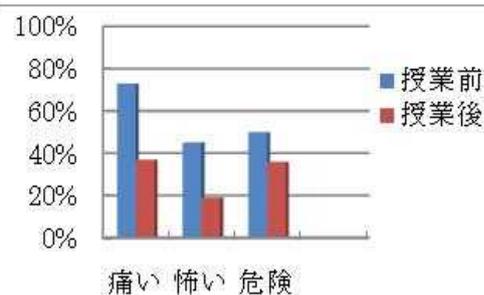
【授業前：柔道に対してのイメージ】

授業前アンケートのイメージでは怖いや痛いなどのイメージを持つ生徒が多かった。



【単元終了後：恐怖心の克服】

柔道を学習した後では、痛いなどの声が減った。



【生徒の感想】

達成感を得たという生徒の意見が多かった。

柔道をする前は、怖かったけど、実際すると面白かった。

きちんと受身をすれば、投げられても痛くない事が分かった。

相手を思いやって投げることができたので良かった。

技が難しかったけど、ポイントを押さえてやったらできた。

地域の指導者と4人体制で指導の充実を目指した実践例

学 校 名 田村市立船引南中学校（福島県）

電 話 番 号 0247（85）2811

全 校 生 徒 数 134 名（男子 65 名 女子 69 名）

種 目 等 武 道（剣道） 第 2 学 年

1 取組体制

(1) 地域連携指導推進協力者会議の開催

① 会議出席者（大学教授，市教育委員会指導主事，地域の指導者，体育担当教員等）

② 会議の内容（全3回）

ア 1 回目（新学習指導要領の趣旨に基づいた武道の在り方）

イ 2 回目（公開授業についての意見交換）

ウ 3 回目（本事業への取り組みの評価と今後へ向けての課題）

(2) 中学校武道指導講習会の開催

剣道の基本的技能や安全確保等について参加者の指導力の向上を図るため，大学教授と地域の外部指導者を講師として，市内の体育担当教員等を対象に2回開催した。

2 取組の概要

(1) 事前の打ち合わせ

地域の指導者と剣道の単元指導計画（10時間）の見直しや授業の進め方について，十分な打ち合わせを実施する。

(2) 2名の地域の指導者とのTTの授業における役割分担

T1，T2の教員が学習活動を進め，技能のポイント等について地域の指導者が指導を行うこととした。8グループを編成し，指導者4人が巡回してきめ細かい指導を行う。また，授業後に指導者による反省と次時への課題の確認を行うこととした。

(3) その他

生徒同士の教え合い，学び合いの姿勢を高めることをねらいとし，剣道部員をスマールティーチャーとして活動させた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 竹刀をはじめ，剣道具の老朽化に伴い，新しく学級の人数分の剣道具を購入した。また，授業のはじめと終わりに竹刀や剣道具，床の状態等について，安全点検を実施した。
- 2 基本打突の仕方や受け方の練習時間を十分に確保した。

○成果と課題

- 1 地域の外部指導者とのTTの授業により，ポイントをおさえた指導を展開することができた。また，生徒の学習意欲，技能を高めることができたと同時に体育担当教員の指導力も向上した。
- 2 地域の外部指導者との打ち合わせ等の時間をどのように確保していくか。また，どのようにして体育担当教員のさらなる指導力の向上を図るかが課題である。

○ 研究内容

【地域連携指導推進協力者会議】

大学教授，地域の外部指導者，教員により3回開催。



【スモールティーチャーの活用】

剣道部員を各グループに配置し着装の補助・実演等を実施。



【安全点検】

授業のはじめと終わりに竹刀，剣道具の点検を実施。



【打突の稽古】

地域の指導者が，剣道部員を相手に打突の示範。



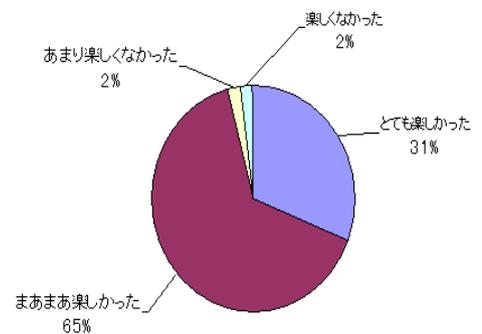
【グループによる判定試合】

面－小手－胴－面を打つ，気剣体一致の打ちを目指す。



【授業後の意識アンケート】

剣道に対するイメージが授業前より大幅にアップ。



伝統的な行動の仕方を重視して指導 した実践例

学 校 名 袖ヶ浦市立昭和中学校（千葉県）
電 話 番 号 0438（62）2034
全 校 生 徒 数 480 名（男子 261 名 女子 219 名）
種 目 等 武道（剣道） 第 1・2 学年

1 取組のねらい

(1) 研究主題

心と体を鍛え育む武道の指導の在り方 ～礼法の知識・技能の習得に着目して～

(2) 研究仮説

- ①保健体育科教員と地域の指導者と連携して指導にすることより、保健体育科教員の武道の指導力が向上し、生徒の心と体を鍛え育む武道の指導ができる。
- ②武道の伝統的な考え方を重視した指導計画を作成して指導することで、生徒の知識・技能は向上し、心と体を鍛え育てることができる。

2 研究計画

期日	内容
6月23日～	市教育委員会担当者と購入備品の確認, 授業実施時期の最終調整, 事前アンケートの内容等
7月10日	事前アンケート実施（生徒）
11月10日	第1回指導計画検討会
12月13日	第2回指導計画検討会（他, 地域の指導者との授業時間の確認）
1月10日～2月10日	地域の指導者との連携指導授業（2年男子剣道）
2月2日	研究授業（講師 渡邊 護先生 ※元袖ヶ浦市立平川中学校長）
2月12日	事後アンケート実施（生徒）
2月28日	袖ヶ浦市武道教育地域連携指導推進協力者会議 研究授業の報告, 平成24年度以降の方向性について

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 授業時期が冬期のため、準備運動については、剣道の基本動作につながる運動を行うなどして、技能と関連させた内容にした。
- 2 武道場に1.5m幅の等間隔でラインテープを使い、生徒の立ち位置を示すことで、安全に練習ができる場を設定した。

○成果と課題

- 1 生徒の98.5%が、地域の指導者の指導について「絶対にいたほうがよい」「いたほうがよい」と回答しており、生徒の興味・関心を高めることができた。
- 2 剣道を初めて経験する生徒が多かったため、礼に始まり礼に終わるなどの伝統的な行動の仕方については、地域の指導者による繰り返し指導するとともに、授業以外でも全教職員で指導したことにより、学校全体で授業前後の生徒の様子に変容が見られた。

○研究内容

【指導計画検討会】

どの場面で、誰が指導に入るか等、保健体育担当教諭と地域指導者とで十分に協議をした。



【安全の工夫】

多くの生徒が防具を共用するため、ガムテープに名前を書いて、垂れに貼り付けた。



【礼法の指導】

「場への礼, 先生への礼, お互いの礼」の3つの礼を地域の指導者から指導した。



【基本動作を含めた動きづくりの準備運動】

面を着ける前に、十分に基本動作を含めた準備運動を行った。



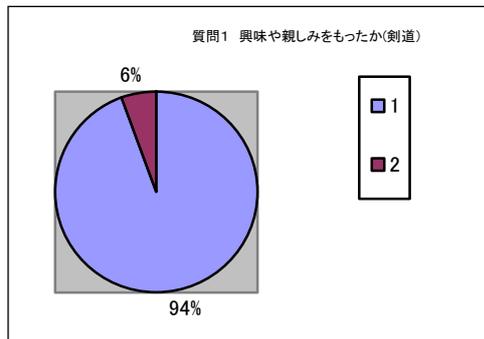
【アンケート結果1】

2年生男子71名中,67名(94%)の生徒が「剣道に親しみを持った」と回答した。

【アンケート結果2】

70%以上の生徒が「礼儀を重んじる」「面白い」と回答した。

※事後アンケート結果（調査対象：2年生男子71名）



剣道を学び、どう感じたか（複数回答可）

項目	人数
1 礼儀を重んじる	56
2 面白い	51
3 集中する	41
4 歴史、伝統を感じる	39

生徒の感想（抜粋）

- ・剣道の授業を通して、礼などの伝統的な行動の仕方が必ずこれからの生活につながると思った。
- ・日本人特有の礼儀作法や克己の心（辛くてもにげないなど）を学べてよかったです。
- ・できれば、来年も自分を鍛えるという意味でやりたいです。
- ・仲間に打たしてもらったり、打たれたりして、仲間の大切さを学ぶことができました。

地域の指導者と教員の役割を明確にして取り組んだ実践例

学 校 名 南アルプス市立八田中学校（山梨県）
電 話 番 号 055 (285) 5252
全 校 生 徒 数 253 名（男子 124 名 女子 129 名）
種 目 等 武道（剣道） 第 2 学年

1 取組体制

本校の校内研究会において保健体育科の教科部会を中心として、県教育委員会、中北教育事務所、南アルプス市教育委員会から指導助言を受け、全校的な組織体制で取り組んだ。地域の指導者は、県教育委員会の紹介により、有段者7段の方に依頼した。

2 取組の概要

(1) 元計画の立案

- ①本年度6月より計6回の関係会議と1回の公開実践研究発表を行った。また、地域の指導者とは電話にて連絡を取り、立案を綿密に行った。
- ②新学習指導要領の内容に基づき、12時間で指導計画を立てた。

(2) 地域の指導者との連携

- ①授業は、体育担当教員が中心となって指導した。
- ②地域の指導者は、技能面でのポイントを中心に指導に当たった。
- ③短い指導時間から種目の特性を考慮して、技能の指導内容を整理した。
- ④授業前の打ち合わせで1時間の目標、内容など指導事項について確認を行うよう心がけた。
- ⑤技の習得のために、「説明→手本→生徒の活動→つまずきの確認→つまずきに対する対応練習→生徒の活動」のサイクルで指導を行った。
- ⑥一斉指導の後に個別（グループ別）指導を行った。
- ⑦3人の指導者（教員2人、地域の指導者1人）が、1時間の授業の中で全員の生徒と接することができるようローテーションしながら指導を行った。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 剣道具、竹刀の整備については、授業のはじめに生徒自身が剣道具・竹刀の点検を行う時間を確保した。竹刀のひび割れ・ささくれ、剣道具の破損などを確認し取替や補修等の指示を行った。
- 2 グループでの確認作業として、全体での用具確認の後、剣道具の装着状況について、グループ内でもお互いの剣道具の着装に関心を持たせることで安全な活動への意識を高めた。

○成果と課題

- 1 地域の指導者を活用したことで、礼儀作法を含め、高いレベルの技能を実際に見ることができ、生徒の興味・関心が高まり、剣道を楽しむことができた生徒が増加した。また、地域の指導者の専門的な知識と指導で、つまずきに応じた練習方法を体育担当教員、生徒ともに知ることができた。
- 2 地域の指導者と体育担当教員の打ち合わせや技能伝達の時間確保をしっかりと確保することが必要である。

○研究内容

【模範技能】

地域の指導者による模範技能の指導



【個別指導】

地域の指導者が各グループを指導する様子



【安全確認】

生徒が協力して面ひもの確認を行う様子



【グループ活動】

授業の成果を確認し、ノートに記入する様子



【生徒アンケート】

授業前後の生徒への「興味・関心・楽しさ」に関するアンケート結果

興味関心について

	とてもある ・少しある	あまりない ・ない ・わからない	備考
授業前	64%	34%	未回答2%
授業後	89%	11%	

楽しむことができたか

	そう思う ・少しそう思う	あまり思わない ・思わない
授業後	95%	5%

技能練習の方法が理解できたか

	そう思う ・少しそう思う	あまり思わない ・思わない
授業後	95%	5%

【技能の習得】

わかりやすい説明と示範により技能が向上



【意欲の高まり】

高いレベルの技能を見ることで意欲が向上



地域の指導者と指導計画を立案して

取り組んだ実践例

学 校 名 浜松市立清竜中学校（静岡県）

電 話 番 号 053 (926) 3741

全 校 生 徒 数 275 名（男子 136 名 女子 139 名）

種 目 等 武道（剣道） 第 1 学年

1 取組のねらい

武道必修化に伴い地域の指導者・関係団体等との連携・協力を通じて、学校における武道の指導の充実を図ることを目的とする。

- （1）地域の指導者と連携し、望ましい指導の在り方を研修する。
- （2）生徒一人一人に対し、より専門的な技術指導を行うことを目標とする。

2 取組の概要

（1）指導計画の立案及び教材の準備

①授業実施に当たり事前に授業の単元構想等について、地域の指導者と何度も協議を行うことで共通理解を深め、授業展開に向けて指導計画や教材を準備した。

②授業実施後には、学級ごとに学習内容についての確認と次時の計画について話し合いを行った。

（2）地域の指導者の具体的な指導内容

①武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方及び礼法（座礼，立礼，正座や座り方・立ち方）の指導。

②剣道具の着装などの指導。

③基本動作の確認及び指導（構え，体さばき，基本打突の仕方と受け方〈面・胴・小手〉など）。

（3）指導における基本的な考え方

①礼儀の尊重，約束事を守ることの徹底。

②基礎・基本の定着を図るため，対人関係の中で基本動作を学ばせる。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 準備運動はもとより，剣道具の正しい着装及び竹刀等の点検を入念に行った上で毎時間授業を進めていき，生徒の体調・怪我の有無等に細心の注意を払った。
- 2 基本動作の確認を行うために対人で取り組む際，繰り返し正しい打突と受けを確認した後，打突時の強度にも配慮して行うようにした。

○成果と課題

- 1 地域の指導者から基本及び専門的な内容について丁寧な指導を受けられたことは，剣道経験のない生徒にとって学習内容を理解する上では，大変有意義な授業となった。
- 2 剣道を分かりやすく身近なものとして伝達していただいた地域の指導者はとても大きな存在であり，今回のTTの経験は，体育担当教員にとっても今後の財産となるものであった。
- 3 専門的，かつきめ細かな指導を同様に継続していくためにはさまざまな課題が残ると思われる。

○研究内容

【武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方】

はじめに武道の歴史，剣道の特性について地域の指導者から説明を受ける生徒。



【竹刀の扱い及び名称】

竹刀の持ち方や構え方について説明を真剣に聞く生徒。



【基本動作の確認】

構え，体さばきについて繰り返し行う生徒



【基本打突】

面・胴・小手打ちの指導を受ける生徒



【授業実施後の剣道の授業に対する生徒へのアンケート結果】

アンケートをとりまとめた結果を掲載

実施学級 1年生男子 (内訳：1年1組 12人 1年2組 13人 1年3組 12人 合計 37人)

剣道経験者 0人 未経験者 37人

- 1 剣道の授業で意欲的に取り組むことができたか？ はい (75%) いいえ (25%)
 - 2 剣道の授業で学習内容を理解することができたか？ はい (89%) いいえ (11%)
 - 3 剣道の授業で楽しいと感じることができたか？ はい (87%) いいえ (13%)
- ☆ 全体を通して，生徒の意欲・理解度・満足感・達成感は概ね高いと思われる。

<生徒の実態を踏まえた単元構想及び授業構想>

剣道を実施するにあたり，事前に生徒へ剣道の経験の有無について確認したところ経験者が0人であった。そのため，地域の指導者と授業内容，指導方法について意見交換をして，剣道に対して内容が難しくならないように配慮した。また，次年度以降の指導内容等も計画した。

<生徒の意識調査から考察した結果>

剣道の授業実施後の生徒アンケートから意欲的に取り組むことができた生徒が多く，剣道への関心が高まったことは，今回の連携指導の大きな成果であると実感している。今後の課題としては，継続して質の高い指導及びきめ細かな授業を行うための準備をしていくことが必要である。